

第32回 市政e-モニターアンケート 「放課後子ども教室運営事業について」 集計結果

【テーマ】放課後子ども教室運営事業について

【目的】放課後子ども教室運営事業（※）は、教育委員会教育総務課が主催し、現在、市内小学校2校で実施をしています。

放課後子ども教室とは、子どもたち（小学生）が、地域社会の中で放課後や週末などに、安全で安心して過ごせるよう、文部科学省と厚生労働省が連携して進めている事業です。地域の方々の協力を得ながら子どもたちの適切な遊びや生活の場を確保し、学習やスポーツ、文化活動などを進めてきました。学童とは異なり、すべての子どもを対象として実施しています（学童に通っている児童の参加も可能です）。保険代と教材費（一部の教室）以外の保護者の負担はありません。

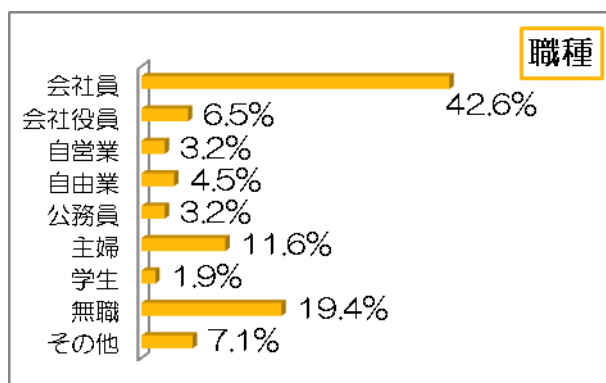
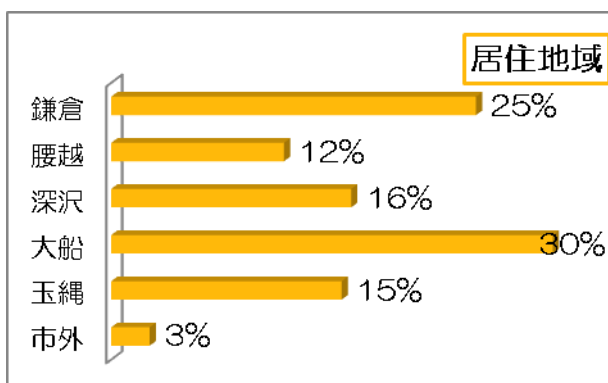
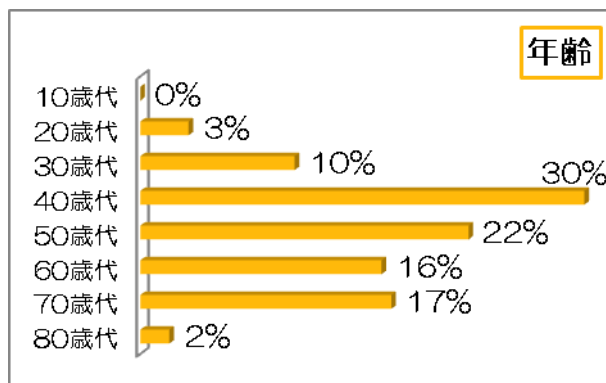
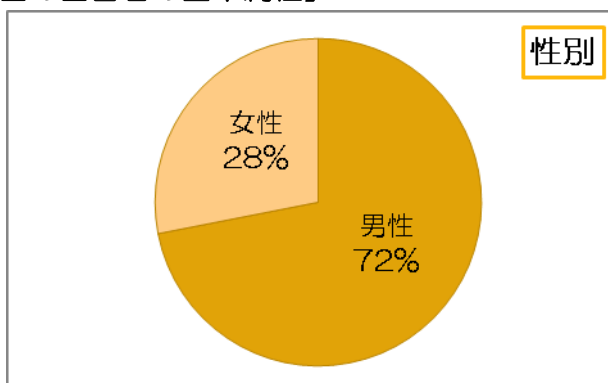
今後、この事業を他校にも拡大していくためには、開催場所（専有スペース）の確保、地域の方の協力、連絡体制が課題となっています。そこで、今後、これらの課題解決の参考とするため、皆さまにご意見を伺います。

（※）平成28年度は、稲村ヶ崎小学校で年間53日（55教室）、今泉小学校で年間21日（42教室）の開催を予定しており、平日は終業後1時間～1時間半のプログラムを組み、土曜日や夏季休業期間は午前中にプログラムを組んでいます。

- ◆ アンケート送信日 : 平成28年5月10日（火）
- ◆ 実施期間 : 平成28年5月10日（火）～平成28年5月24日（火）
- ◆ 送信者数 : 396 名（着信者数 382名）
- ◆ 回答者数 : 155 名
- ◆ 回答率(対着信者数) : 40. 6%（前回より -0. 2ポイント）



【今回の回答者の基本属性】



【本事業について】

【質問 1】（必須）「放課後子ども教室」のことをご存じでしたか？

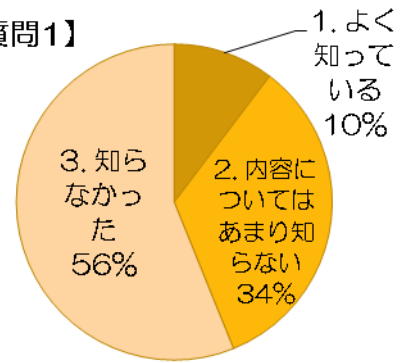
1. よく知っている	16 名
2. 名称を聞いたことはあるが、内容についてはあまり知らない	52 名
3. 知らなかった	87 名



【教育総務課】

放課後子ども教室は、多くの方々に知られていないことがわかりました。市内小学校 16 校中、まだ 2 校での実施のため、該当学区以外の周知機会が少なかったこともこの結果に反映されているようです。

【質問1】



【質問2】（必須）子どもたちが、放課後に安全で安心して遊べる場所が、ご近所にありますか？

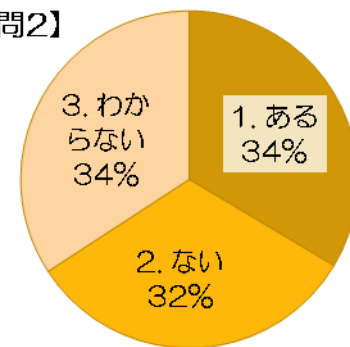
1. ある	52 名
2. ない	50 名
3. わからない	53 名



【教育総務課】

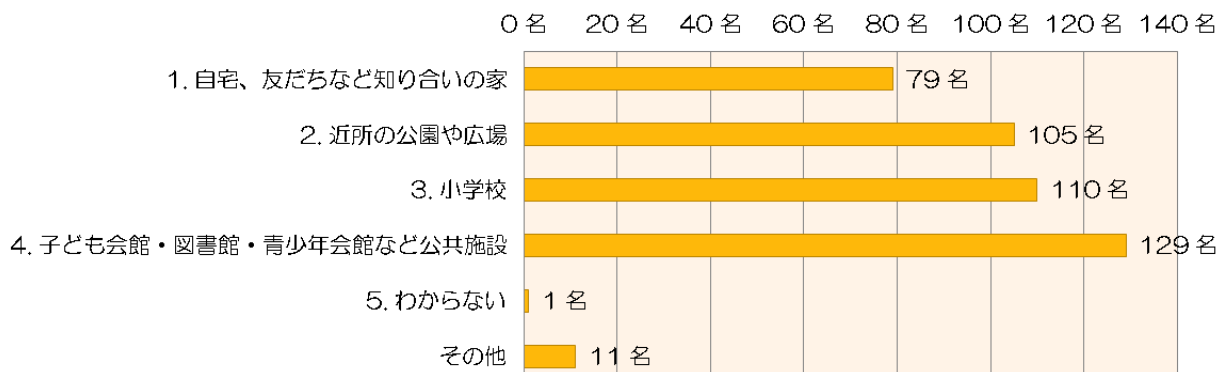
「ある」「ない」の回答数が拮抗しており、地域による差異もあることが考えられます。また、鎌倉市でも、以前に比べ、遊び場において大人（地域）の目が少なくなってきたことや、遊び場までの交通量が増え、子どもたちだけで遊び場まで行くことが難しくなっていることなど、子どもたちが安全で安心して遊べるという場所が減ってきていることを実感しています。

【質問2】



【質問3】（必須）放課後に子どもたちが過ごすのに適していると思われる場所は、どのようなところですか？【複数選択可】

【質問3】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

- 事故や犯罪に巻き込まれないように見守る大人が居る場所
- 地域で設置している集会所、自治会集合場所、町内会図書室（更なる図書の充実が求められる）
- 海、山、畑など。少しでも自然に触れることができる場所
- 境内地、里山
- 町内での自宅提供者の庭
- 駄菓子屋 昔はたくさんの駄菓子屋があり、そこが小学生の社交場でした
- 塾、習い事の教室など

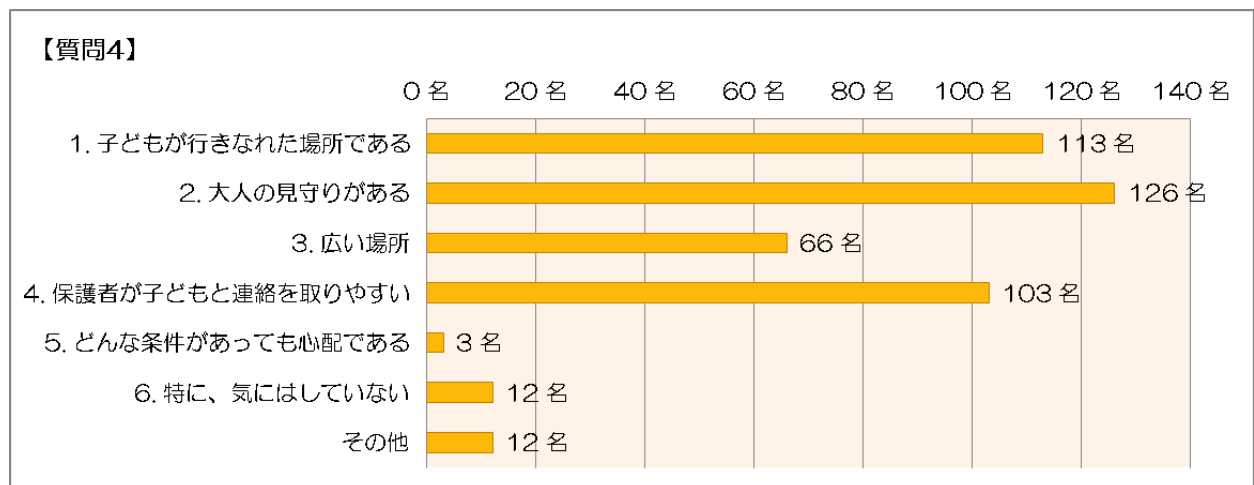


【教育総務課】

「放課後、子どもたちが過ごすのに適している場所については、
「公共施設」と回答された方が多く、その期待度が伺えました。

【質問4】（必須）子どもたちが、安全で安心して過ごせる場所の条件として、どのようなことが考えられますか？

【複数選択可】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

- 建物の前の道路に歩道があるなど、子どもが万が一飛び出しても平気な構造
- 車が入ってこない
- ご近所の目がある、見通しの良いところ
- 信頼のおける施設であること（ハード面・ソフト面ともに）
- 多少のケガやケンカは子どもの経験値を上げる、という視点でおおらかに子どもを見守る事の出来る人材
- 大人の見守りについては、学校の先生だからいいとか、PTAだからとかではなく、ロールモデル（模範）となる適切な大人であることが必要と思います
- 地域社会で子どもの安全に関して常に情報交換が行われている環境がどこでも必要。小・中学校からの情報の提供
- スポーツ的遊びなら広い場所。親が神経質ならそれなりの監視の届く場所
- 住民の同意（公園や校庭で遊んでいても、うるさいと近所のお年寄りからのクレームが来て悲しい。公園や校庭は住宅よりも前からあるのに、お年寄りが子どもの遊び場をどんどん奪っている状態。）



【教育総務課】

「大人の見守りがある場所」のニーズが高いことが認識できました。
地域の皆さんで、子どもたちを見守る仕組みを検討してまいります。

【質問5】現在、放課後子ども教室では、以下のような教室を実施しています。

- ・理科（生物、宇宙、化学、物理的な分野等）教室
- ・算数教室
- ・百人一首教室
- ・囲碁教室
- ・グラウンドを使ってみんなで遊ぶ教室
- ・音楽教室
- ・読み聞かせ教室お絵かき教室
- ・昔遊び教室
- ・俳句教室
- ・ものづくり教室 など



上記の他にどのような教室があると、子どもたちにとって有意義な時間が送れると思われますか？【自由記載】

※同様のご意見は集約しています

意見が多かった教室	パソコン教室（エクセル、ワード）・プログラミング教室・インターネットを使った時の情報リテラシー教室（家庭の環境によっては触れる機会がない、将来役立つ技術の入り口を見せられるもの。スマホの使い方を体験）
	英語・英会話教室・語学教室
	料理・食育関係・お菓子作り（参加者みんなで料理を一緒に作って食べるということはいいいコミュニケーションの手段）
	スポーツ教室（団体スポーツによってコミュニケーションなどが学習できる）・身体を動かすこと（鉄棒、竹馬 一輪車など）
	クラブでないサッカー、野球以外のスポーツ教室・（室内）球技
	体操教室・ダンス（フラダンスやバレエなど）
	茶道華道教室・フラワーアレンジメント
	書道教室
	手芸教室
	国語（漢字など）・簡単なエッセイのような作文教室
	何もしなくていい場所・好きなことをしていい場所
	苦手な勉強の復習教室（予習、復習が出来る）・宿題などをやる静かな場所（大学生等に宿題をみてもらう。基本は自分で行うが、サポートしてもらう）
	放課後寺子屋のような補習の教室
	地域の歴史と産業、地域の産業や工芸に関する教室（地元のことをよく知ってほしい。）
	野菜作り・園芸・菜園
	地元のご年配の方々に、地域の昔の様子や、戦争の時の話をしてもらったり、鎌倉の歴史についての話を聞いたり調べたりすると、地元に対して愛着が出来る
	国際人交流・海外の子どもと普通に遊ぶ・外国駐在経験者による体験談
その他の教室	理解しやすい小説などの読み聞かせ
	図書館などの市の施設を利用して、自分で本を探し、本を読むことを学ぶ（静かにすることなど、一般のマナーも覚えられる）
	工作教室・写真・絵画
	そろばん教室
	邦楽教室（和楽器）・コーラス
	まちづくり、地域づくり等を学べる場
	映画鑑賞会
	日本昔話(日本史)、世界昔話（世界史）
	自然観察、散策（自然に接することが出来る場所で、生き物の命や自然のすばらしさを触れることによって、現在の子どもたちに足りない情操面の向上が図れる）
	環境教室
	自転車の安全運転や交通規則を教えてあげてほしい

	昔遊び教室・将棋・落語会など
	質のよいテレビをいっしょに見る
	人間関係を築くトレーニング教室（近年コミュニケーションに悩む生徒児童が増加しているため）
	社会生活の基礎を体得できる教室
	実社会の体験教室的な場（市役所、消防署、警察署、病院、駅、工場、老人ホーム等）の見学教室
	現状の学校教育に組み込まれていない項目・昔の農作業・天体のイベント（日食、月食、流星群ほか）・野山の冒険など
	身近な歴史災害の話、対処法など
	認知症サポーター
	障害者を理解する教室
提 案	自分たちで何をしたいか決めて、大人の手を借りずに自由に過ごせる時間。やりたくないことに決まってしまうと、我慢できるスキルを身につけられる場と大人も理解して運営を子どもに任せてみる。なんでも先に教わる環境で、失敗なくうまくできることが子どもに求められ過ぎている気がする
	外部の専門講師に依頼し、子どもたちが心身ともに健全な成長を遂げるのに役立つ、有意義な話をさせていただく時間があるのもいいのではないかと思います
	生涯学習センターが主催している講座や学校のカリキュラムとオーバーラップしないよう明確な差別化が必要と思う（講師の質が問われるところである）
	地域ボランティアとしてボーイスカウト活動があり、体系的に子どもの成長を促すような内容になっています
意見	項目だけでなく、活動内容を説明していないと判断できない
	俳句とか全く不要では？子ども教室とは、子どもが子どもの頃に身につける・体験できることを趣旨にと思う
	色々と考えられますが、現状でも十分だと思います
	とてもよいことだと思う



【教育総務課】

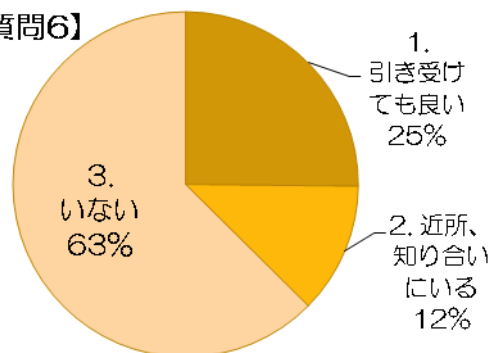
「今回いただいた様々なご意見を参考に、学校の授業では、なかなか体験できないことがプログラムとして組めるよう、内容を検討してまいります。」

【質問6】（必須）あなたがお住まいの地域に、ご自身も含め、平日の放課後、【質問5】にあるような教室の指導者として、また放課後子ども教室の見守りサポーターとして、無償または有償ボランティアを引き受けてくださるような方、あるいは団体はいらっしゃいますか？

1. 自分が引き受けても良い	39 名
2. 近所、知り合いにいる	19 名
3. いない	97 名



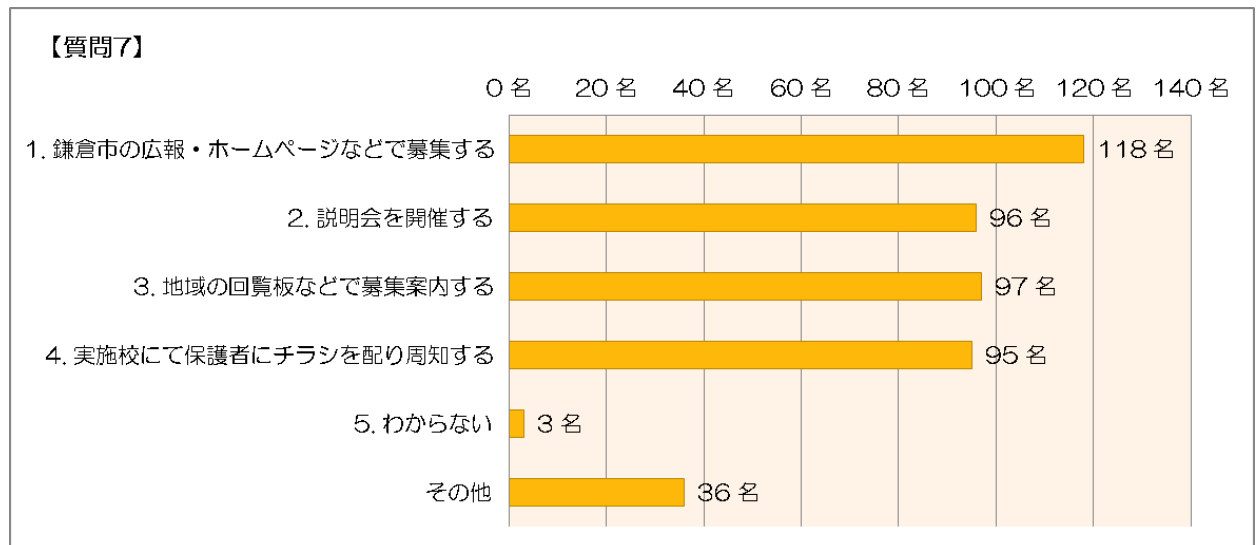
【質問6】



【教育総務課】

「25%の方が「自分が引き受けても良い」と回答されており、今後の事業展開に期待の持てるものとなりました。」

【質問7】（必須）この事業は、地域の方のご協力が不可欠です。どのようにしたら、放課後子ども教室を知っていただき、無償または有償ボランティアを引き受けてくださる人材の確保ができると思いますか？【複数選択可】



※「その他」の意見（同様のご意見は集約しています）

各種、場の活用 （宣伝・周知）	鎌倉市の選挙会場で募集案内をする。総合病院、市役所および行政センター、図書館貸し借りカウンターで宣伝する
	本庁ロビーの映像
	大船体育館、鎌倉体育館、こもれび、武道館などの掲示板
	バス、食品スーパーなど。動物病院等もよさそう
	駅などで地道に宣伝
	実施校での見学会
	鎌人市場やフリーマーケットでチラシを配る。作品を出展しているアーティストがものづくり教室の講師として参加してくれるかもしれない
	カマコンで発表する
直接的な呼びかけ	自治町内会や老人会にお願いして、適任の方がいたら知らせてもらう
	おやじの会やPTAと連携する
	市内各種NPOや地域の子育支援活動をしている団体と連携する
	サッカースクールを行っているので、そういった施設・会社と繋がることで、教室開催を打診できると思う
	シルバー人材センター、各組織の退職者、商工会議所、寺院、神社の関係者。学習センターの推進委員、特に退職した教員
	子どもとかかわる場を求めている人をみつける。大学、専門学校の研修。企業の社会貢献活動。団体の社会貢献活動（技術士会など）。開催までに費やす時間、手間が少なくなる仕組みを作る（インターネットの活用）
	教職課程のある大学に呼び掛ける
	時間が自由になる自営業者をあたる
その他（意見）	他の地域ボランティア組織と連携して鎌倉の方針を決めてはいかがですが
	自薦、他薦にかかわらず選考が難しい
	ボランティアとして活動したくとも、子育てをしている世代や働いている世代にはどうしても無理があると思う（高齢者へのアプローチがメインになるのではないかな）
	日常的に地域の子どものとかかわる環境が必要
	人材を確保するうえでどの程度の知識レベル・経験を必要とするのか、お手伝いの日数はどの程度なのか・・・にもよると思います
	もしもの時の責任問題があるので、気軽に引き受けられない。そこら辺を明確に、負担を減らすか、経験がなくてもこんなことでも協力可能だという具体例の提示が欲しい

ボランティアといっても、子どもを預かる大事な仕事なので、出来れば、教員、保育士OB、有資格者のボランティアが良いのではないかと。多少なりとも、有償の方が責任感を持って良いと思う

プロフェッショナルに頼む、子どもに本物を見せることが大事だと思うので、優秀な人材確保はボランティアだと難しい。金額を明示して募集すると良い

無償はだめ、人件費支給で募集すること。地域の高齢者を利用することを前提にしない

参加希望者の登録バンクを作成する。定期的なものでなくても、参加可能な人もいないかもしれないので。活動内容を定期的に報告する

放課後見守り対象となる子どもたちの親がもっと積極的に動かないと地域の住民は動かない。子どもの登下校は住民に見えているが、親が何をやっているのか全く見えない。たとえば子ども会は協力して自治町内会に働きかけて、町ぐるみでの見守り活動を始めようにする。子どもの親たちが地域のイベントなどにもっと積極的に参加するなど。親が地域活動に顔を見せて協力を要請することが必要。つまり、「4保護者にチラシを配り」ではなく、「保護者がチラシを配る」ことが必要

鎌倉市の職員で充分対応できます。民間と比較して業務効率、生産性、向上心は申し訳ありませんが低いと言わざるを得ません。民間であれば内整化で対応します



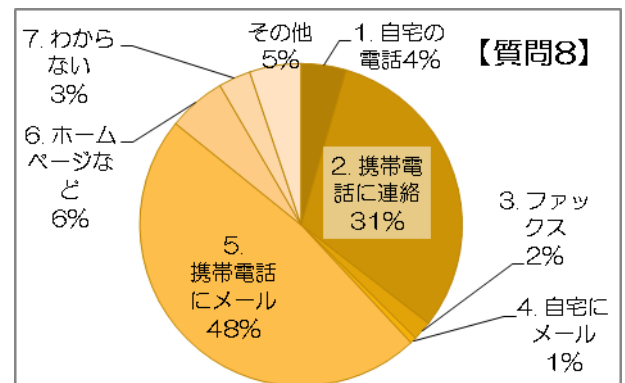
【教育総務課】

多くの具体的なご意見をいただき、非常に参考になりました。今後、より多くの方に周知できるよう、広報活動並びに情報収集活動を進めてまいります。

【質問8】(必須) 放課後子ども教室では、台風等で教室が中止になる場合などの緊急時に、緊急連絡先に連絡をしてもなかなか連絡がつかないことがあり、連絡体制が課題となっています。

あなたのお子さんや講師などであなたが「放課後子ども教室」を利用する場合、このような連絡は、どのような手段であれば、一番確実に伝わりますか？優先順位の高いものをお選びください。

1. 自宅の電話に連絡がくる	7 名
2. 携帯電話に連絡がくる	48 名
3. ファックスに連絡がくる	3 名
4. 自宅のパソコンにメールがくる	1 名
5. 携帯電話にメールがくる	73 名
6. ホームページなどで中止情報が公開されている	9 名
7. 利用することはないため、わからない	5 名
その他	8 名



※「その他」の意見

- LINEなどSNSを利用する
- メールとSNSの役割が全く異なりメアドを持たない方々が増えています。無人音声を利用したプッシュ回線での携帯電話での連絡が良いと思う
- 連絡掲示板を作り、そこで管理する。掲示板に投稿すると、保護者にメールが行くようにする
- 複数の通信手段を活用する
- 相手の要望により手段は異なる。申告した個別対応でしょう
- 「緊急連絡先に連絡をしてもなかなか連絡がつかない」場合があることを利用者に理解してもらう。そもそも緊急連絡先なので、それで連絡がつかないのであれば留守番電話に伝言を入れればよいと思う

【教育総務課】

「アンケート結果では、携帯電話への電話・メール連絡が多いことがわかりました。今後の、緊急連絡方法の検討を進めていく上で参考とさせていただきます。



【質問9】放課後子ども教室事業全般についてご意見がありましたらご記入ください。【自由記載】

事業に賛同・拡充	鎌倉（大船地域）では特に、子どもの遊べる公園などが少なく、塾に行ったり誰かの家で集まったりしか子どもが遊べない状況が問題だと思う。多少有料であってもよいので、横浜など他地域のように早急に制度を広めてほしい。子育てサポートの充実がないと、どんどん近隣の自治体へ子育て世代が流出する危機を感じています
	ぜひ各小学校で開催してほしい。空き教室があるのもったいない
	放課後子ども教室の理念は非常によく、今後子ども会館や青少年会館など、子どもの生涯学習を目的とする他の施設との協働が図れるといいと思う。（所管部署は異なるものの）協働の取り組みが進めば、教室講師の相互融通や新企画の発案がスムーズに進むことができると期待している
	是非、1日も早くすべての小学校で実施できると良いと思います。子どもを地域ぐるみで育てていけたら幸せです
	とても良い試みだと思うのでぜひ続けてほしいです。大人が小学生の面倒を見るのみではなく、近隣の中学生や高校生が、学生ボランティアとして小学生と一緒に学ぶといった場もあって良いのではないのでしょうか。年齢が近いとより親しみもわくのではと思います
	大変興味があります。ぜひ、お力になればと思います
	共稼ぎ（または、シングルマザーなど）のご家庭には、必要な施設だと思います。関係者のご努力に感謝します
	我が家は未就学児がいる共働き家庭です。就学したら放課後どうするか今から悩んでいます。放課後の子どもの居場所があるのはありがたい
	いま、子どもの放課後の「居場所」がありません。子どもは友達と共にいられ（一人でも行ける場所であればなおいい）、自由に遊べる場所さえあればいいと思います
	地域全体で子どもたちを育てる、また子どもたちの居場所作りとして、必要だと思います
	いいと思います。もっと充実できるといいです
	今後保育園が充実する→学童保育・放課後子ども教室の拡充が喫緊の課題になってくると思います
	よい試みと思いますが、きちんと機能できるようプログラムの整備や地域の協力が必要だと思います
	早く他の小学校にも拡充して行って欲しい
	小学校低学年の授業時間は多い日でも5時間なので今後拡大しても参加が可能かと思いますが、高学年は6時間授業も多く、放課後は塾やスポーツクラブに通っている子どもが多いため、実施する時期や曜日や時短の考慮が必要かと思います。放課後子ども教室は大賛成です
	積極的に進めて欲しい
	とても良い。友達の家では漫画かゲームをしていることが多いので、能動的で奥深さもある遊びに出会える。世代を超えたコミュニケーションが自然に学べる
	出来るだけ早めに、全小学校で実施されることを希望します
	児童館や公園に集まっている子どもたちが、輪になってゲームをしている光景をよく見る。対戦ゲームなのだろう。もっといろいろな経験をすることができたら、と思わずにいられない。放課後子ども教室は賛成
事業に対する 提案・意見	学童は外で遊ぶことができず、毎日部屋の中で過ごしているので、少しでも何かこのような教室等があって外に出られると有意義で助かります。（特に、夏休みなどの長期休暇中にあると嬉しいです。）
	場所は子ども会館、学校などをうまく利用し、新たに借りたり、購入したりなどは経費がもったいない
	もっと積極的に学校側からも参加の呼びかけをして、子ども自身から「行きたい！」と言える環境づくりをしてほしい。プリントだけ渡しても、持ち帰らなかったり、受け取ってそのまま放置してしまったりで情報の伝達が乏しいように思われる
	子どもを地域で大切に育てようとの意識が大事、テストケースを綿密にするだけでなく、できるだけ広い範囲に早く実施できるようにして、やりながらその中で改善点を見つけ、改良してゆくのがよいと考えます

私の住む地域では、お年寄りの居場所作りは進んでいます。一方、子どもたちの居場所は年々減ってきているように感じます。遊びにも制限がたくさんあって、自由に遊ぶことが少ないので、ルールは最低限で子どもたちにやりたいことを提案してもらい、実行することも必要かと思えます
保護者が働いていて学童に預けざるを得ない場合、送り迎えができず、平日に習い事をさせてあげられないので、学校やクラブ活動以外のスポーツなどを体験できる機会があったらありがたいと思います
通学地域の自治会等を利用する事も検討してはいかがでしょうか
学校の教室を使うときの管理責任者が現在は学校長になっているが、放課後の生徒の管理は別途考えるべき。建物の瑕疵（階段の手すりが壊れたなど）建物のメンテについては学校長でよいが、子どもの事故などは学校と切り離して別途責任者を置くことが必要。
全ての子どもを対象にすること。地域の高齢者以外にも募集すること（いまの高齢者は子ども嫌いが多いため）
子どもたちが、ゲームがなくても「遊ぶ」ことを学べればいい。「いじわる」を言ったりするのではなく、「笑いあう」ことの楽しさ「ドキドキする思い出」を作る、そんな場所を作ってほしい。これ以上「学ばせるのであれば」日本人としてのマナーや、言葉遣いがきちんとできるプロの大人の人を配置して、「大人ってかっこいい」「大きくなったら、あんな人になりたい」と思えるような、見習いたくなるような人がいてくれたら子どもを通わせたい
毎回参加している子どもとか兄弟で参加している場合などの子どもは、リーダー的にその場を仕切りたがるので、まずは開始のアジェンダをきちんと説明して全体の流れを理解させて、自分勝手な行動を慎むことを説明してから開始をしないと新しく参加してきた子どもが次回への参加意欲をなくしてしまうと思う
ものづくり教室等学校で行えない学びの場を少人数の集まりで多く作ることが望ましい
学校では教えない項目で、市の子どもの成長に役立つことをもっと考えてください
1) 高齢者対策とセットで検討するのがよいと思います。即ち、子どもが集まれる施設をデイケアに隣接して設置し、中庭を共有化するような方法です。2) 図書館は、子どもの勉強を禁止しているように見えますが、平日の午後くらいはむしろ子ども達が集まって一緒に宿題をするのを歓迎すればよいと思います
指導者等に無償でボランティアを求めるのはやめるべき。対価を払って、それに見合った責任を果たしてもらう形が正しい姿勢。公共としても、予算がないから民間でたでやってくれ、という姿勢は改め、対価を払うことによる契約当事者としての責任を果たしてほしい
NPO などに委託するなど、民間の力を利用する
放課後に家で一人留守番をする、ゲーム、マンガやテレビなどで受け身な時間を過ごすのではなく、友達、大人と関わりながら、自分の考えを表現、共有できる時間を過ごしてほしい
教室よりもセキュアかつ利用しやすく快適なスペースが重要。それも含めて教室事業と呼ぶのでしょうか、あとは数。各小学校単位は最低限で、実際は町単位。例えば山崎小はカバリエリアが広く、台山とモノレール道路の向こうとでは遊ぶ場所が違います。教室のカリキュラムを増やすよりも場所を増やす方に予算を重点配分すべきかと思えます
目的として、放課後の子どもの居場所を提供するものならば、従来の子どもの放課後の行動を考慮したほうがよいのでは。大人が介入しない、子どもたちだけの遊びのなかにも学びがたくさんあり育つ上で大事な活動でもある。子どもたちが自由に遊べることを第一に保証すべきではないか。地域の人々はそれを見守るだけでも関わりになると思う。地域の方々による〇〇教室というのはオプション的なものでいいのでは。大人の指導のもと特定の活動をさせていれば安心・安全の面でリスクは少ないだろうが興味を持っていなければ参加するのは子どもにしてみればつらいもの。学校は学校教育を受ける場。放課後の生活の場とは切り離れたほうがよいと思う。また、学校を利用するのはいろいろな面で無理があるし、これ以上使い方の幅を広げることができないのでは。早急に場所の確保につとめていただきたい。それから、確実に安心・安全といえるような子ども時間などないと思う。保護者はそれをある程度理解した上で参加させるべきだと思うし、運営側も、あまりにそれにとらわれすぎて子どもにとってつまらない放課後とにならないよう考えてもらいたい

	子どもたちと地域の高齢者の方々と触れ合える場を設けたらもっと有意義な子ども教室になるのではと思います
	ニーズ調査をしっかりとしてから、場所を探して始めて欲しい
	途中から参加する場合や途中で帰る場合も想定して、参加し易い内容を考えること。例えば途中で帰る子には家でも続きが考えられる様な資料の配布とか・・・
	主催が教育委員会になっているのは良いが、学校側の協力がもと必要だと思う。学校をもっと開放すべきではないか
	学校で行うということで、放課後、移動せずに済むので、親子ともに安心感があって良いことだと思う。高齢者が増えていること、お年寄りと触れ合う機会の無い子どもも増えていると思うので、ボランティアに高齢者も入れて、昔の遊びなどを伝承してもらい、昔の生活等を話してもらい、というのも良いかと思う。高齢者と若い人のバランスを取り、多様な年齢のスタッフが複数教室にいるようにすれば良いと思う
	安全安心なだけか、それ以上か、その間か、という事業者/行政の舵とりで何を子どもに提供できるかわってくるので、現実的には予算の確保が大切かと思います
	地域のつながり課と協働連携して
	学校の先生方だけで教室活動のすべてをカバーするのは実質的に無理でしょうから、ボランティアなど民間の力を借りるべきかと思います
	私は「かまくらロボット・ものづくり研究会」メンバーとして小学校、青少年会館でもものづくり教室に参加していますが、正直、メンバー不足です。技術はあっても何もしていない高齢者は多いのではありませんか。行政がメンバー募集をしても良いのではありませんか
周知・その他	放課後子ども教室事業のイメージが沸かない。有意義な企画だと思うが、講師を選ぶ難しさがある
	あること自体、知らなかったので市民にもっと周知してもよいと思いました
	市の広報などに頻繁に掲載したり、説明会を頻繁に行い、市民に広く理解してもらうことが重要である
	まだまだ、周知が足りないと思う。子どもに関わる人だけではなく、50代60代と関わりが少ないと思われる年代にも周知して、鎌倉市全体で考えていく必要があると思う。保護者や学校関係者だけが積極的に関わるとなると限界があるし、一部のみにだけ負担になると思う。鎌倉市が鎌倉の子どもたちを育てていこうと思う気持ちが大切だと思う
	この事業そのものが知られていない。もっと自治会に協力を依頼し、場合によっては説明会・指導者の体験教室等を開き、その自治会で応援できるような教室を開く。指導者は個人でなく自治会がグループ長になり適材適所にあった人を派遣する
	子どもたちは、勉強(進学等)に忙しく利用者は限られるのではないのでしょうか。利用者はどのくらいいるのか把握されているのでしょうか？
	子どもの興味の芽を育てる、子ども同士が話せる「場」の提供と推進が肝要だと思います。
	「鎌倉市教育大綱」平成28年2月告示にて、鎌倉市民に放課後児童対策の充実を宣言したのですから、お隣の横浜市栄区のように出来るだけ早期に、小学校全校（16校）で実施するべきでしょう
	そもそも身近に公園が無さすぎる。ボランティアを募って教室もいいが、人手以前にもっと遊べる場所に注力すべきではないか？
	現在は70代の老夫婦の生活なので、具体的なことは解りませんが、”何よりも子どもたちの安全が第一”と思います。
	子どもにとらわれず地域のお年寄りなども気軽に参加できる「場」づくりができれば、おのずと子どもにも良い事業に結びついていくのでは？
	可能な限りで、子ども支援のサポートをしたいが、参加可能日は日曜日しかない。（平日は不定期）
	私の子どもがお世話になったのは、市の学童保育ではなく、一般の方がやっていたものでした。（藤沢市）家で遊ばせてくれるほか、宿題を見てくれて、近くのグラウンドで遊んでくれて、熱がありそうな時は緊急性がなければ、時間まで部屋で寝かせてくれていました。夕方になると、車に乗せて各家をまわり、家の前まで送っていただきました。知ったのはクチコミ。とてもありがたかったです

鎌倉市はそもそも子どもが遊べる所が無い。公園も小さいし、利用可能な大きな広場も無い。特に何もない、芝の大きな広場があるだけでも良いと思っています。

熱心な講師、世話人の確保と充実が必須。また、保護者、子どもへの周知が求められる非常に良い取り組みだと思いますが、子どものいない(成長した)家庭や高齢者にとってなじみの薄い事業です。市全体としてももう少しPRや取り組みの広報、あるいは隣接市町村との共同等が必要ではないでしょうか

放課後の子どもに必要なのは教室ではなく遊び場。音楽遊び、踊り遊び…子ども教室の名称があまりよいとは思えません



【教育総務課】

「放課後子ども教室は、平成19年度から稲村ヶ崎小学校で、平成27年度から今泉小学校で実施（平成26年度より試行）いたしました。

今後、さらに多くの小学校区で実施ができるよう、今回のご意見を参考に、検討してまいります。様々なご意見、ありがとうございました。



鎌倉市 経営企画部 秘書広報課 広報広聴担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

TEL 0467 (61) 3867 内線 2506

FAX 0467 (23) 6505

e-mail : emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp